

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100049		
法人名	特定非営利活動法人 三和会		
事業所名	グループホーム かしわぐら		
所在地	前橋市柏倉町855番地8		
自己評価作成日	平成26年 6月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2
訪問調査日	平成26年 7月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様の誕生日に「夢」を実現できるよう支援を行っている。また日々の中で「変化のない生活」にならないよう、パン屋さんやラーメン屋台などに来園してもらい、普段とは違った雰囲気味わっていただいている。個々の御利用者様が御家族と疎遠になられてしまわぬよう、月々の支払いを現金とさせていただき、施設に来ていただく機会を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

月1回開催しているケース会議では、職員が思いや要望等を自由に発言出来る雰囲気作りをしており、出された意見等をサービス提供に反映させている。外部評価の結果を真摯に受け止め、職員全員で話し合いを持ち、自主的な避難訓練の増加、利用者の希望を取り入れた食事の提供や入浴の実施等、改善に向けたケアの工夫が見える。利用者一人ひとりと向き合い、生活がマンネリ化しないように近隣の散歩や外食等でそれぞれの思いや希望に沿った対応に努めている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念を共有すると共に、地域の一員であることを自覚し、地域に溶け込めるよう職員一体で取り組んでいる。	理念を玄関と職員室に掲示しており、年度の変わり時やミーティング等で管理者から伝えられている。町内会行事の参加や近隣の住民との交流等を重視している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方々から野菜などを頂いたり、施設に来るパン屋さんを地域住民の方々も利用できるようにしている。	町内会行事の参加、毎年交代する自治会長宅への挨拶、公民館での桜の花見、散歩時の挨拶、近所の農家から野菜を頂く等の交流が行われている。フラワーパークで顔見知りとなった人と馴染の関係が出来たり、近所の人によるギター演奏等で交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々に「グループホームの役割・認知症という病気の症状」など機会がある際には説明をさせて頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	発言しやすい環境を整えるとともに、「意見・要望書」を設置し、投書があった場合にはその都度職員全体で検討・改善を行っている。	隔月に年6回市職員、家族、自治会長、職員が参加して開催している。活動報告・地域情報提供等を行い、意見交換や勉強会等を行っている。家族の参加が少ない為、開催曜日の検討を行い参加人数を増やすための取組を計画している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	前橋市に対し運営推進会議の参加依頼を提出する際など現状の報告や不明点の確認などを行っている。	介護認定の申請手続きの代行を支所に出かけて行っている。相談事や不明な点は電話やメール等で意見交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として「拘束はしない」という考え方を職員全体で理解して取り組んでいる。また施錠は最小限に留め、センサーを設置し、事故を未然に防ぐ対策を講じている。	玄関は戸が開くとセンサーでチャイムが鳴る様になっており、職員が見守る等で開錠している。言葉の抑制については職員トイレに具体例を掲示し、管理者から注意するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、資料を回覧したり施設内研修を開催し、職員の知識を深め意識する教育を行い防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を回覧したり施設内研修などにより、一人ひとりのレベルアップを図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には「契約書・重要事項説明書」等の説明を十分に行い、後日でも内容についての質問を受け付けている。また改定時にも十分な説明を行い、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて運営に関する情報も公表するとともに、「御意見・要望書」を設置し、意見を反映できる環境を整えている。	利用料の支払い(月1回)時の家族訪問では管理者から日常の様子を伝え、家族から意見や要望を聞いている。普段の面会では職員から声を掛け、家族からの話しや要望等を聞き出せるよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議の際に意見等を聞く機会を設け、運営に反映させるようにしている。	月1回のケース会議では職員が提案等の意見を出し合い、浴室のシャワーチェア購入に結び付けた。勤務表は休みの希望を確認してから作成している。勤務変更等についても管理者に相談しながら行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく職員の希望に沿い、勤務形態や職場環境を整えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や能力の把握に努め、各々に適した研修になるべく参加できる職場環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会などの研修等に参加し、他施設職員との交流ができるようにしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問をさせて頂き、御本人様の意向を十分確認し、さらに入所時アンケートにて今までの生活環境を把握することにより、より良いサービスの提供ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に事前訪問をさせて頂き、御家族の意向を十分確認し、さらに入所時アンケートにて要望等を把握することにより、より良いサービスの提供ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族の意向を十分理解した上で、様々なサービスの提供方法を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に生活をしている」という意識を常に持ち、施設での生活を共に支えあえる関係を築けるように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と職員が協力し、共に生きる家族となれるような関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の友人・知人にも面会に来ていただけるような環境作りを心掛けている。	家族や友人が面会の際にはお茶を入れ、居室で話をしたり、一緒におやつを食べて頂く等、訪問しやすい雰囲気づくりに務めている。自宅で飼っている犬を家族が連れてきて一緒に散歩に出かける等、以前の生活習慣を継続している人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や趣味・個性を十分に理解・把握し、御利用者様同士の関係が円滑にいくよう職員が間に入り、より良い関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係をいつまでも継続できるように、相談しやすい環境を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中から希望を吸い上げ、出来る限り希望に添った支援方法を検討・提供している。	入居時に生活歴や好み等について、アンケート用紙を活用して家族に記入して頂いたり、元気だった頃の様子を聞いて日々のケアの参考としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの生活環境などやアンケート・御本人や御家族から、出来る限り「その人」を理解出来るように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状況を、毎朝のミーティングや気づきがあった時点で報告しあい情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族の意向を十分に取り入れ、職員間で話し合い、工夫をしながら介護計画を立案している。	ニーズは本人の意向を反映させ、月1回モニタリングを実施、3か月毎に介護計画を見直し、家族に説明し同意を得ている。変化があった際には随時の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア方法について「試行期間」を設け、ノートに記載し情報を共有している。その結果をケース会議にて話し合い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者様のその日の体調や気分に合わせて、レクリエーション等を検討・実施する環境を整えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御本人様の出来る事や出来ない事を把握し、無理なく安心・安全に生活出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った医療機関を受診していただけるようにしている。	入居時に協力医について説明を行い、希望によりかかりつけ医の継続は出来る。家族支援の通院を原則としているが、情報提供を行ったり、希望があれば職員による通院支援もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの身体機能の変化や症状であっても随時報告し、処置方法等の指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に備えて医療機関や御家族との情報交換を密に行い、早期退院が出来るよう環境を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期の在り方について説明し、理解していただいた上で同意書に署名・捺印していただいている。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、入居時に説明・同意を得ている。状態変化の際には管理者から家族へ伝え、医師の説明を受け、家族との共有や医師等の協力を得ながら希望に沿った対応に努めている。この1年間で2名の看取りが実践されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発生時には、代表者・管理者に連絡し、指示を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎月1回実施しており、全職員が経験出来るような勤務体制を取っている。また地域の方々には、災害時の協力をお願いしている。	26年3月27日と9月26日消防署立会いの下、避難・誘導訓練を実施。毎月1回の自主的な避難訓練を計画的に実施。非常食の備蓄は水・缶詰・水で炊けるご飯・パンの缶詰等を3日分程度備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に御利用者様は「お客様」とであるという意識を持ち、一人ひとりを尊重した対応を心掛けています。	日頃のケアの中で否定や静止する言葉づかいが無いよう、普段より管理者から職員に伝えられている。また、職員トイレ内には例示を記した文章を掲示して周知をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を提供し、自己決定出来るような対応を取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設や職員のペースにならないよう、希望に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿った身だしなみが出来よう、職員が支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態を御本人の能力に合わせ対応している。その日の朝に「食べたい物」をお聞きし、可能な限り対応している。	献立が作成されているが、朝、健康チェックの際に食べたい物を聞き、変更することもある。食事介助や声掛け等が多くなっている。飲物はお茶の他、コーヒー、紅茶、スポーツドリンク等が用意しており希望に基づいて提供されている。	食事摂取状況に応じた工夫を行いながら、利用者と一緒に食事の時間を過ごし、楽しみの機会となるよう期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をチェック表にて把握し、増減するなど栄養状態の管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせ、毎食後に口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存機能を活かし、基本的には「トイレでの排泄」を実施しており、それに向けてその人に合わせた排泄介助を行っている。	定時のトイレ誘導の他、個別の仕草からトイレに誘導する等随時の対応を行っている。排泄記録はあるが排泄の時間等個別のパターンが把握できる記録とはなっていない。	個別の排泄パターンが把握できるようにして、全職員が排泄状況の共通理解に基づいた排泄の自立に向けたケアが実施できるよう期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日1回ヨーグルトを提供すると共に、一人ひとりに合わせ内服薬にて排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝のバイタルチェック時に希望を取り、可能な限り希望に沿った対応している。	月曜から土曜まで入浴を実施している。週3回の入浴を目安にしているが、希望を聞き取り希望があれば対応している。拒否者は時間を変えて誘う等の工夫をしている。ゆず湯、菖蒲湯、バラの花を浮かべる等、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり在宅時でのパターンを把握し、自由に生活していただけるよう支援している。また希望や心身状態によっても対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報を入所前より全職員に伝え、確認・管理を徹底している。また身体状況の変化については、随時報告しあうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時アンケートなどにより個々の趣味や好み、希望を把握し、張り合いのある生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出することにより身体機能の維持・向上が図れるため、外出の機会を多く取れるよう企画している。	ドライブで道の駅やフラワーパークに出かけ、顔馴染みとなった方との交流もある。誕生日には希望の場所を聞いて外出や外食を行っている。その際には家族に案内を出して協力を依頼している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に施設が行っているが、御本人が希望される物については、可能な限り一緒に買い物に出ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など、御本人宛のものについては自由にやり取りしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた空間作りを基本に、季節に合った飾りや花を飾っている。空調は御利用者様の感覚に合わせて調整している。	季節の装飾やテレビとソファが配置され、食後にソファで寛いでいる利用者もいる。食堂の前には景色が良く見えるデッキがあり、天候や希望等によってデッキでお茶を飲むこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは勿論のこと、日向ぼっこなどが出来るようにデッキを開放している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込まれる備品については、御自宅で過ごされていた時と同じような雰囲気を出せるよう配慮している。	テレビや時計、家族の写真が掲示されている。畳に炬燵と座布団が設えられ、ソファ等が持ち込まれ、自宅での生活スタイルに近い生活空間を作り、落ち着ける場所づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、支援が必要な時に職員が支援出来るよう、見守り・心掛けを行っている。		